

LEVEL  
**4**

# 私わたし とハムスター





朗読音声のダウンロード  
Audio download

## よ　まえ ★読む前に Before you read

### 《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む



### 《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.



これは、私が中学生の時に本当にあつた出来事です。

ある日、両親がハムスターを買ってきました。当時、私は病気のせいであいえることが多く、家にいる私が寂しくないよう、ハムスターを買っててくれたのでした。

家族で話し合い、ハムスターの名前は「マロン」に決まりました。



マロンは、回し車が大好きで、私の部屋では、夜になるとマロンが回すカラカラという音がしていました。マロンがいるおかげで、私は家にいる時間が寂しくありませんでした。

マロンが私たちの家に来て一年が経つたころ、



マロンの元気<sup>げんき</sup>がなくなってしまいま  
した。私は母<sup>はは</sup>といっしょにマロンを  
病院<sup>びょういん</sup>に連れてきました。

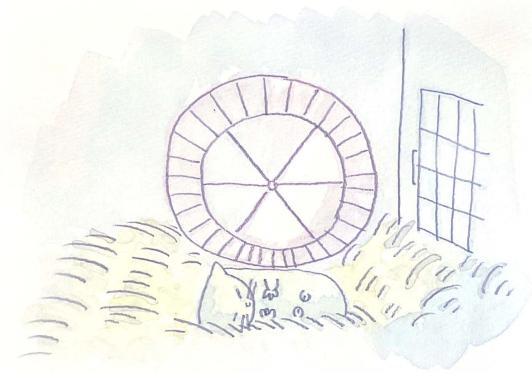
病院<sup>びょういん</sup>で、マロンは重い病氣<sup>おもびょうき</sup>だと  
うことがわかりました。医者<sup>いしゃ</sup>は、  
「マロンは、もう、少ししか生きり  
れない」

と語りました。私はそれを聞いて、と  
ても悲しくなり、いつもよりも多くの時間<sup>じかん</sup>をマロンと過ごすようになりました。



マロンはご飯をあまり食べなくなり、寝ていて  
ことが多くなりました。何日か経ったある日、  
マロンは死んでしまいました。私はとても悲し  
かったです。そして、家の庭にマロンを埋めて、  
マロンのお墓を作りました。

その日の夜、私はなかなか  
眠ることができませんでした。  
た。布団に入つても、マロン  
との思い出や、空っぽになつてしまつたケージのこ  
とばかりが、頭に浮かんで消えませんでした。



マロンのお墓



その時ときです。カラカラ…カラカラ…  
という音おとが聞きこえてきました。マロンの  
回まわし車ぐるまの音おとです。

ケージを見ると、回まわし車ぐるまが回まわつていま  
す。しかし、マロンの姿すがたがありません。  
マロンのいないケージで、回まわし車ぐるまだけが  
回まわつているのです。私は自分の頬ほおを  
叩たたき、夢ゆめではないことを確かめました。  
私はしばらくマロンのいないケージで回まわし車ぐるまが回まわつているのを見みていま  
したが、いつの間にか寝ねてしまいました。



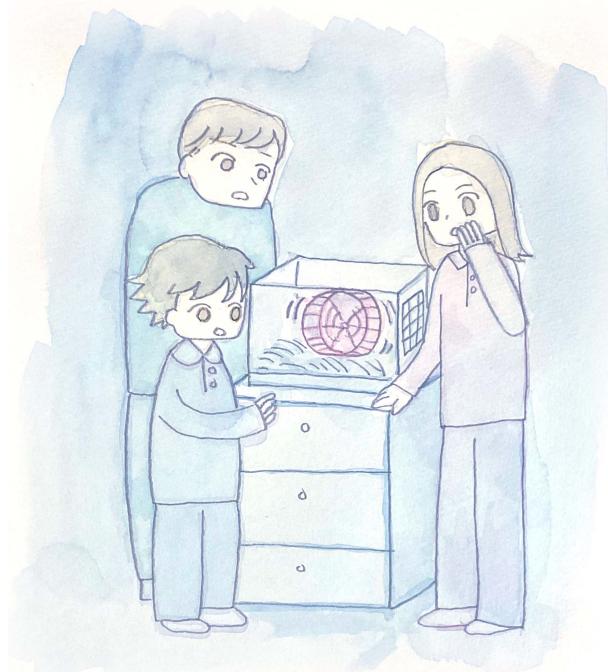
翌朝、マロンのケージを見ると、回し車は止まつっていました。もしかしたら夢だったのかもしれないと思つて、その日の夜も確かめてみることにしました。布団に入つてしまはらくすると、カラカラ…カラカラ…という音が聞こえてきます。回し車は次の日の夜も、その次の日の夜も回り続けました。夢ではなかつたのです。

「今晚いつしょにケージを見てみよ」  
といました。  
た父は、  
夢ではないとわかつた私は、このことを父に話しました。それを聞いて

その日の夜、父、母、私の三人はケージの前で待っていました。しばらく待ついると、回し車が回り始めました。それを見た父は言いました。

「もしかしたらマロンは自分が死んだことに気がついていないかも知れない」

そして、その日は親子三人で、私の部屋でいっしょに眠りました。



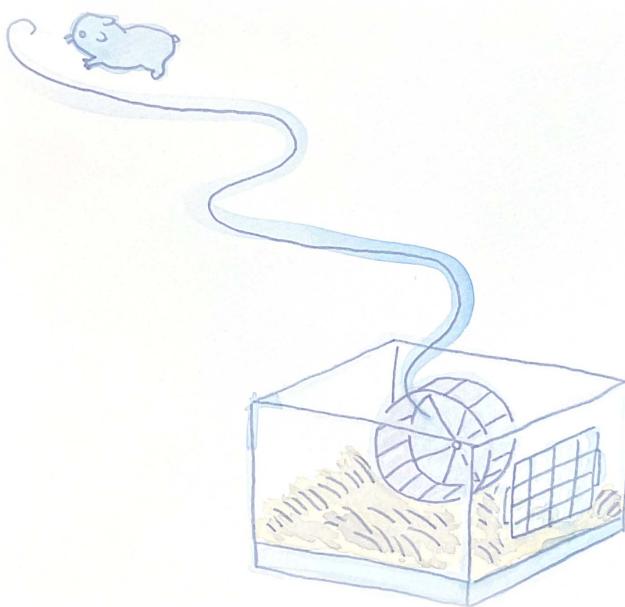
翌朝、父は、マロンの工を入れ  
と水飲み皿を持ってきて、私と母  
を起こしました。そして、庭の  
マロンのお墓の前に土さと水を置  
きました。父は、

「マロン、君はもう死んでしまっ  
たから、戻つてきていけない  
よ」

「  
といい、マロンのお墓に手を合わせました。私と母も父と同じように手  
を合わせました。



ひの夜、まわし車はまわりませんでした。そして、その後もまわし車がまわるとはありませんでした。



これが私が中学生の時に体験したすべてです。

しかし、この話には続きがあります。回し車が回ることはなくなりましたが、マロンは今でも何年かに一度、私の夢に出て来るようになりました。

す。

そして、夢で出てきたびに、マロンの姿が大きくなつてゐるのです。



わたし  
私とハムスター

---

発行 : 2025年5月5日

作 : 和田朋也、

イラスト : くどうみさと

監修 : NPO多言語多読

この作品はJSPS科研費21K00603の  
助成を受けた研究のためのプロジェクト  
ワークの成果物です。



TADOKU  
Supporters

NPO多言語多読  
tadoku.org



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンスの下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>